

大宮工業・浦和工業新校基本計画検討委員会（第1回）議事録

日 時 令和4年12月16日（金）15:00～16:30

場 所 大宮工業高校会議室

出席委員 栗藤委員長、野辺副委員長、櫻井副委員長、中出委員、宮崎委員、
関委員、山崎委員、菊池（弘）委員、万沢委員、西委員、山口委員、
大高委員、宿谷委員、菊地（優）委員、井野委員、横山委員、
大場委員、鯨井委員、岩本委員、高橋委員、石井委員、手島委員、
遠井委員、松村委員

事務局 魅力ある高校づくり課 坂本、高辻

協 議 「大宮工業・浦和工業新校基本計画検討（案）」について

○主な意見・質問・回答

No.	主な意見・質問・回答
1	大宮工業高校では、国の指定を受けマイスター・ハイスクール事業に取り組んでおり、新校においても、小・中学生の職業に対する興味・関心を高め、地域のものづくりの拠点となる学校を目指したいと考えている。
2	最先端分野の指導における企業の技術者や研究者を産業実務科教員に採用し、指導を行っていただくことや、新校が産官学の連携組織を活用した工業技術研修センター、いわば総合教育センターの役割を果たし、教育活動に繋げていければと考えている。
3	マイスター・ハイスクールの説明の中で出てきた、「STREAMS 教育」という言葉について説明いただきたい。 Sはscience、Tはtechnology、Rはrobotics、Eはengineering、Aはart(s)、Mはmathematics、Sはsportsということで、様々な分野の視点から、物事を考え興味、関心、探究力、そして表現力、情報リテラシー、また自律的論理的な考え方、そして創造に繋がる感性を持たせる、そういったものを各分野統合した形で学びを深める、というのがSTREAMS教育である。
4	教科指導については、マイスター・ハイスクールの事業の継承とともに、個別最適な学びの推進ということで、総合選択制による教科指導を導入したい。また情報教育の充実、ミックスホームルームの実施等も検討したい。
5	総合選択制を視野に入れつつ、ICTを活用した協働的な学びや主体的な学びを推進した教育が実践したい。また、外部人材の活用や国際理解教育等も実施できるとよい。

6	エンジニアとしての資質の育成として、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の遵守を進めていきたいと考えている。
7	生徒指導については、日本独自の文化も大切にしながら、国際的な流れも注視したい。
8	入試選抜の工夫を行い、尖った才能を見つけることが大切であると考えている。
9	最先端の産業分野における人材育成ということは、様々な方との繋がりを持った協働教育を進めなくてはならない。そのため、マイスター・ハイスクール事業で培ったものを新校に上手く当てはめながら、進めていきたいと考えている。
10	今までの工業高校の考え方・概念ではなく、新たな専門高校の設置というところで、大学との連携強化など、継続的な教育の仕組み・制度を構築していくことを検討してはどうか。
11	<p>情報に関する学科を設置するということは、工業高校にとってかなり革新的なことである。これまでと入学してくる生徒の質も変わってくると思うが、情報科の教員がいない中で、話を先に進めていくことに少し不安を感じている。情報科の教員が今後、この委員会に加わる可能性があるのか。</p> <p>また、情報に関する学科を設置するに当たっては、施設・設備の充実が欠かせない。</p> <p>（回答）情報科の教員については、基本的には開校年度である令和8年度から置くことになるが、開校と同時にいきなり様々なことに順応することは難しいとも考えている。開校の前年度から置くべきなのか等については、学校と相談しながら検討していきたい。</p> <p>施設・設備については、基本的には既存の施設を利用して、足りないところを補っていく形になる。</p>
12	基本姿勢について、パイロット校という表現があるが、これでは先行試作とか実験・試験的試案のような言葉の捉え方ができてしまう。新校は試して何かを発信していく学校ではなく、これらを先進的に進めていく拠点校であるということになるので、このパイロット校という言葉は適さないと感じている。
13	国際理解、国際化への対応ということで、今後新校でも国際バカロレアの「キャリア関係プログラム」といった新しい取組も検討してはどうか。
14	例えば先端産業分野について、何が先端産業分野なのか、この点について両校の間で目指しているイメージが異なると、基本計画の骨子の作成が難しくなると思う。今後両校の先生方で議論を進め、早めに情報共有、情報交換を行っていききたいと思う。